

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立蔦淵小学校

1 自己評価書

教育目標	地域に夢と愛着を持ち、たくましく生きる蔦淵っ子の育成				
基本方針	本校の文化と伝統を継承しつつ、愛媛県教育委員会並びに宇和島市教育委員会の基本方針に基づき、児童の「生きる力」を育み、一人一人のウェルビーイングと包摂的で持続可能な地域社会の共創を目指して、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を通して、地域とともに歩む学校づくりに努める。				
本年度重点目標	1 「確かな学力」の定着と向上 2 「豊かな心」の育成と人権教育の推進 3 「たくましい心身」の育成と生徒指導の充実 4 特別支援教育の充実 5 防災・安全教育の推進				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	B	B
			・具体的な対策の実施	B	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	C
			・保護者アンケート	C	
・児童生徒アンケート			D		
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・児童生徒アンケート	B		
<p>(成果と課題)</p> <p>○自主学習に力を入れて取り組んだことで、家庭の協力もあり、自主的に取り組む態度が定着しつつある。 ○教職員も児童と一緒に読書をする機会を増やすことができた。また、新たな取組として、図書室便りの発行やファミリー読書による読書週間を設けたことで、少しずつ読書への親しみを高めることができた。 ○学校行事のバス遠足では、雲の上の図書館に行き、読書に親しむことができるように取り組んだ。児童は、夢中になって読書をするようになってきた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○読書活動について、家庭への協力を依頼するとともに、チェック表を作成し家庭での取り組みについて、保護者のコメントを記入するようにした。 ○家庭学習や読書活動の充実について、家庭との連携を密に図ることで少しずつ効果が現れてきた。今後も継続していくことが大切である。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	B
			・児童生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	B
・児童アンケート			B		
・児童アンケート			C		
<p>(成果と課題)</p> <p>○アンケート結果や普段の生活の様子から、いじめと認定される事案はなかったが、「いじめはどの学校でも起こりうる」という認識を持ち、児童の言動をしっかりと見ていくようにする。 ○児童の変化について、全教職員で情報交換ができていたため、誰もが保護者とのコミュニケーションに生かすことができている。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○自己有用感について、児童は普段の係活動や学校行事などにおいて、声を掛け合ったり手助けをしたりすることができている。これらのことが、人の役に立っていることに気付かせる手立てを講じる必要がある。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B A	A
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <p>○誰がどの校務分掌を担っても効率よく処理できるように考えて仕事をしているため、長時間勤務になりがちである。</p> <p>○学校運営協議会の方々の協力を得ることで、学校行事の準備や片付けなど、教職員の負担軽減を図ることができた。</p> <p>○教職員数が少ないため、一人が抱える校務分掌が多く、事務的作業に時間を取られる。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○少しずつではあるが、物的環境を整えることで、効率よく業務が行えるようにしている。</p> <p>○標準授業時数を大幅に上回ることがないように調整し、放課後の時間を確保することで、教職員の長時間労働の改善を図る。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	B
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
			・保護者アンケート ・地域アンケート	B A	
② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	A		
③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校だよりの配布やホームページへの掲載を通して、教育活動や児童の成長の様子を発信することができた。</p> <p>○保護者や地域住民から、気兼ねなく来校できるとの意見をいただいたことは、学校の教育活動への理解や教職員の丁寧な対応の結果である。</p> <p>○来年度の閉校に向けて、学校運営協議会を中心に、閉校イベントなどを検討してる。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○学校運営協議会を中心に、閉校に向けてのイベントを具体的にしていくことが必要である。</p> <p>○今後も公民館活動との連携を図ることで、教育活動を充実させていく。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満